

呼吸器感染症の ウイルス・細菌図鑑


医学監修：東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 統合臨床感染症学分野 教授
東京医科歯科大学病院 感染症内科 科長、感染制御部 部長
具 芳明先生

ビオメリュー・ジャパン株式会社





目次

- ・新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)とは? … P2
 - ・季節性コロナウイルスとは? … P3
 - ・インフルエンザウイルスとは? … P4
 - ・RSウイルス(RSV)とは? … P5
 - ・アデノウイルスとは? … P6
 - ・ヒトメタニューモウイルス(hMPV)とは? … P7
 - ・ヒトライノウイルス/エンテロウイルスとは? … P8
 - ・パラインフルエンザウイルスとは? … P9
 - ・百日咳菌とは? … P10
 - ・パラ百日咳菌とは? … P11
 - ・肺炎クラミジアとは? … P12
 - ・肺炎マイコプラズマとは? … P13
 - ・病原体一覧 … P14
- 



Coronavirus SARS-CoV-2

新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) とは?



新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) は、コロナウイルスの一種であり、COVID-19 (coronavirus disease 2019) を引き起こします。多くの場合、風邪やインフルエンザ、肺炎によく似た呼吸器症状を引き起こします。呼吸器系以外にも感染することがあります。高齢者、免疫不全患者、基礎疾患を持つ人は重症化するリスクが高いです。

感染経路

新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) は通常、以下の経路で伝播します。

- 咳やくしゃみによる飛沫
- 手を触れたり、握手したりするなどの直接的な接触
- ウイルスが付着した物や表面に触れ、手を洗う前に口、鼻、目に触れる

COVID-19に感染した人は、たとえ症状がなくても、感染を広げる可能性があります。症状は、早ければ曝露から約2日後に現れます。

症状

SARS-CoV-2に感染した人々の症状は、軽症から重症まで多岐にわたります。症状は株によって様々であり、ワクチン接種の有無によっても異なります。

一般的な症状は以下の通りです：

- 悪寒・発熱
- 鼻づまり・鼻水
- のどの痛み
- 咳
- 息切れまたは呼吸困難
- 疲労
- 筋肉痛または体の痛み
- 頭痛
- 新たな味覚または嗅覚の喪失
- 下痢
- 吐き気または嘔吐

治療と注意事項

COVID-19のほとんどの人は軽症で、自宅療養で回復します。重症化を防ぐためにワクチンが有効とされています。

COVID-19を発症している人に対しては、抗ウイルス薬も使用可能です。

感染リスクを下げ、感染を広げないために、「人混みを避けること」、「手洗い」、「呼吸器衛生/咳エチケット」が大切です。



Coronavirus (seasonal)

季節性コロナウイルスとは？

229E型、NL63型、OC43型、HKU1型などの季節性コロナウイルスは、軽度から中等度の上気道炎を引き起こします。ほとんどの人は、生涯のうちにこれらのウイルスの1つ以上に感染するとされています。

季節性コロナウイルスは時に、肺炎や気管支炎などの下気道疾患を引き起こすことがあります。特に心肺疾患、免疫系が弱っている人、乳幼児、高齢者に多く見られます。

*この情報は季節性コロナウイルスにのみ適応されます。

SARS-CoV-2ウイルスによるコロナウイルス感染症 (COVID-19) はP2をご参照ください。

感染経路

季節性コロナウイルスは通常、感染者から他の人に対して、以下のような経路で感染します：

- 咳やくしゃみの飛沫
- 手を触れたり、握手したりするなどの直接的な接触
- ウイルスが付着した物や表面に触れ、手を洗う前に口、鼻、目に触れる

潜伏期間は十分に分かっていない部分もありますが、一般的に約2～5日とされています。

発症後、約2～4日は最も感染力が強く、他の人に感染させる可能性があります。場合によっては、2週間程度ウイルスを排出している可能性があります。

症状

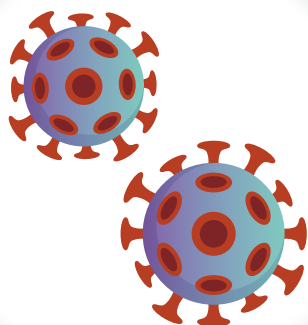
一般的な症状は以下の通りです：

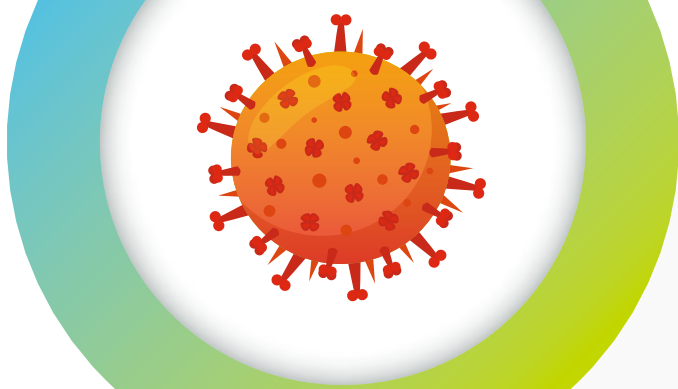
- 鼻水 ○喉の痛み ○頭痛
- 発熱 ○咳 ○全般的な体調不良

季節性コロナウイルスは、気管支炎、クループ、肺炎などの下気道感染症に関連することがあります。一般的には、発症後数日症状がもっとも強く、約7～10日で徐々に改善します。

治療と注意事項

治療法は年齢と症状に応じた対症療法であり、予防のためのワクチンはありません。感染リスクを下げ、感染を広げないために、「人混みを避けること」、「手洗い」、「呼吸器衛生/咳エチケット」が大切です。





Influenza A / Influenza B virus

インフルエンザウイルスとは？

インフルエンザウイルスには多くの系統があります。感染症の原因となるのはA型とB型が多く、冬季を中心に流行します。

基礎疾患のない健康な人では、インフルエンザに罹患しても自然治癒することが多いです。重篤な合併症は、年齢に関係なく誰にでも起こる可能性があります。とくに、65歳以上の人、特定の慢性疾患（免疫抑制、喘息、糖尿病、心臓病など）を持つ人、妊娠中の女性、5歳未満の子供（特に2歳未満）では重症化するリスクが高いとされています。

感染経路

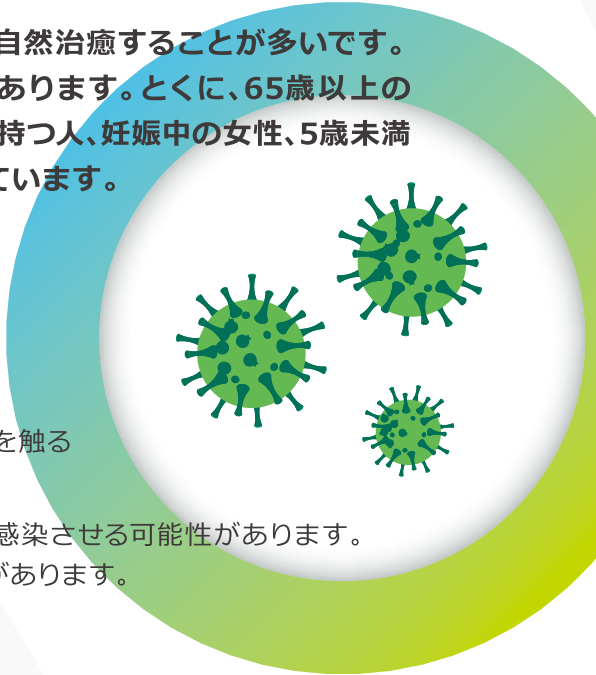
インフルエンザウイルスは以下のような経路で感染します：

- 咳やくしゃみによる飛沫
- 手を触れたり、握手したりするなどの直接的な接触
- ウイルスが付着した物や表面に触れた後、手を洗う前に口、鼻、目を触る

潜伏期間は通常1～4日で、多くの場合2日程度です。

感染力は発症後3～4日以内が最も強く、5～7日程度は他の人に感染させる可能性があります。

免疫力の低い人では、さらにウイルスの排出期間が長くなる可能性があります。



症状

インフルエンザは軽症から重症まで様々な症状を引き起こし、一般的には数日から2週間以内に改善しますが、時には死に至ることもあります。

一般的な症状は以下の通りです：

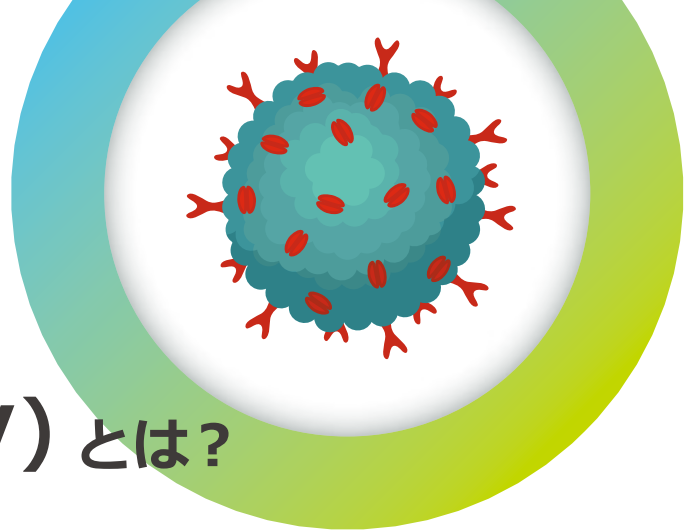
- 発熱 ○悪寒 ○咳 ○のどの痛み ○鼻水または鼻づまり
- 筋肉痛または体の痛み ○頭痛 ○疲労（倦怠感） ○嘔吐や下痢

中等度の合併症として副鼻腔感染症や中耳炎があります。重篤な合併症として、肺炎、心筋炎、脳炎、筋炎、多臓器不全があります。インフルエンザは慢性疾患を悪化させることもあります。例えば喘息患者や慢性心疾患患者はインフルエンザ罹患をきっかけに症状が悪化することがあります。

治療と注意事項

インフルエンザ罹患とその重篤な合併症のリスクを軽減する最善の方法は、毎年予防接種を受けることです。インフルエンザの治療には、数種類の抗ウイルス薬があります。抗ウイルス薬は発症から2日以内に開始するのが最も効果的であり、適切に使用すれば、発熱やその他の症状を軽減し、罹患期間を約1日短縮することができますとされています。また、肺炎などの重篤なインフルエンザ合併症を予防することもできます。





Respiratory syncytial virus

RSウイルス (RSV) とは？

RSVは、乳幼児に様々な呼吸器疾患を引き起こすとされ、ほとんどの子どもが2歳までにRSVに感染します。風邪症状のことが一般的ですが、細気管支炎や肺炎のような下気道感染症を引き起こすこともあります。重症化は幼い乳幼児に多くみられます。成人では通常、無症状または軽症です。しかし、中には肺炎など重篤な下気道症状を示す人もいます。

重症化のリスクが高い人

- 未熟児 ○6ヵ月未満の乳児
- 慢性肺疾患または先天性心疾患のある2歳未満の小児 ○免疫系が抑制されている小児
- 嚥下や粘液分泌の除去が困難な人を含む、神経筋障害のある小児
- 65歳以上の高齢者 ○慢性肺疾患または心臓疾患のある成人
- 免疫力が低下している成人

感染経路

RSVは通常、以下のような方法で感染者から他の人に伝播します：

- 感染した子どもの顔にキスをするなど、ウイルスに直接接触すること
- 咳やくしゃみによる飛沫
- RSV が付着した物や表面に触れ、手を洗う前に口、鼻、目に触れる

潜伏期間は約2～8日で、多くの場合4～6日程度です。
発症後3～8日程度は人に感染させる可能性があります。

症状

一般的な症状は以下の通りです：

- 鼻水 ○食欲減退 ○咳 ○くしゃみ ○発熱 ○喘鳴

これらの症状は通常、段階的に現れ、一度にすべて現れることはありません。乳幼児では、過敏性、活動性の低下、呼吸困難のみが症状として現れることもあります。症状は一般的に発症後3～5日目がかっとも強く、発症から改善までには7～14日程度かかります。

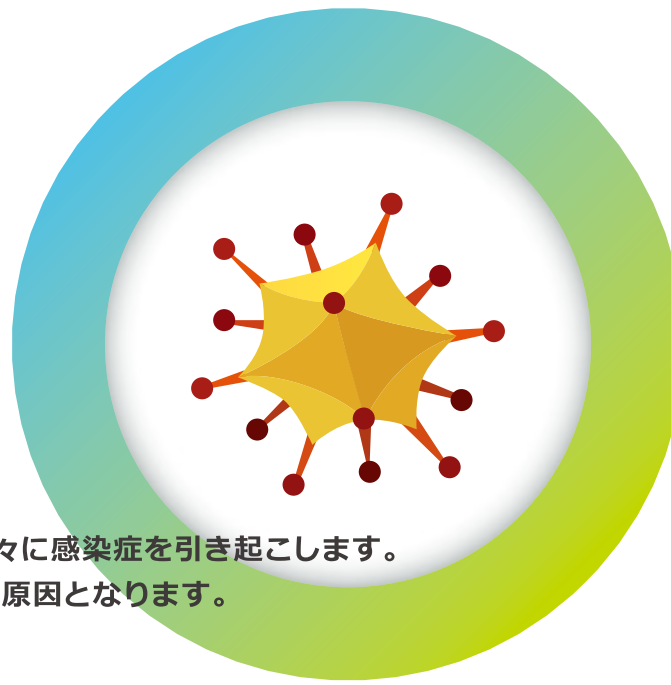
治療と注意事項

RSVの特別な治療法はありません。健康な成人や小児では通常は入院の必要はないですが、呼吸困難や脱水症状がある場合やリスクの高い人は入院が必要になることがあります。

感染リスクを下げ、感染を広げないために、「人混みを避けること」、「手洗い」、「呼吸器衛生/咳エチケット」が大切です。

一部の国では、シナジス（パリビズマブ）注射が、RSVに感染するリスクの高い小児の予防に使用されます。

高齢者を対象としたRSVワクチンが日本で承認されました。



Adenovirus

アデノウイルスとは？

アデノウイルスは一年中、かつ年齢を問わず、様々な人々に感染症を引き起こします。型によって呼吸器疾患、流行性角結膜炎、胃腸炎などの原因となります。

感染経路

アデノウイルスは通常、以下のような経路で感染します：

- 手を触れたり、握手したりするなどの直接的な接触
- 咳やくしゃみによる飛沫からの感染
- アデノウイルスが付着した物や表面に触れ、手を洗う前に口、鼻、目に直接触れる
- アデノウイルスの中には、おむつ交換時などに感染者の便を介して感染することもあります
- アデノウイルスは、プールなどの水を通して広がることもありますが、あまり一般的ではありません

潜伏期間は呼吸器感染症で2～14日程度です。発症後数日は最も感染力が高いと言われています。免疫力が低い人では、数週間ウイルスを排出している場合もあります。

症状

アデノウイルスは様々な症状を引き起こしますが、稀に重症化することがあります。

免疫力の低下、呼吸器疾患や心疾患のある人は、アデノウイルス感染が重症化するリスクが高くなります。

アデノウイルスは様々な病気を引き起こし、風邪やインフルエンザに似た症状を示します。

一般的な症状は以下の通りです：

- 発熱 ○喉の痛み ○急性気管支炎 ○肺炎 ○結膜炎
- 急性胃腸炎（下痢、嘔吐、吐き気、腹痛を引き起こす胃や腸の炎症）

症状は一般的に発症後3～5日目がかっとも強いです。重症化した場合は症状が改善するまでに数週間程度かかることがあります。

治療と注意事項

アデノウイルス感染症に対する特別な治療法はありません。アデノウイルス感染症の治療は対症療法と合併症の治療となります。重症の場合は、入院が必要となる場合があります。

感染リスクを下げ、感染を広げないために、「人混みを避けること」、「手洗い」、「呼吸器衛生/咳エチケット」が大切です。アデノウイルスはエンベロープを持たないため、アルコールで不活化することは困難であり、皮膚、嘔吐物、環境表面で長期間生存する可能性があります。



Human metapneumovirus

ヒトメタニューモウイルス (hMPV) とは?

hMPVは、あらゆる年齢層、特に幼児、高齢者、免疫力の低下した人に上気道炎や気管支炎、肺炎などの下気道炎を引き起こす可能性があります。

感染経路

hMPVは、感染者から他の人へ、以下のような経路で伝播する可能性が高いとされています：

- 咳やくしゃみによる分泌物
- 手を触れたり、握手したりするなどの直接的な接触
- ウイルスが付着した物や表面に触れた後、口、鼻、目に触れる際に感染するリスクがあがります

潜伏期間は明確ではありませんが、約5～9日のことが多いです。

発症後、数日間、もっとも感染力が高いと考えられます。

症状

小児では、気管支炎、肺炎、喘息増悪、クループ、上気道感染症、急性中耳炎を引き起こすことがあり、発熱を伴うこともあります。成人では、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の急性増悪や肺炎と関連しています。免疫力の低い人が感染すると、重症化することがあります。

一般的な症状は以下の通りです：

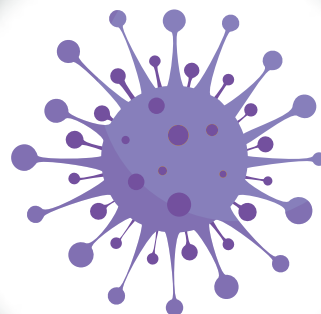
- 咳
- 鼻づまり
- 発熱
- 息切れ

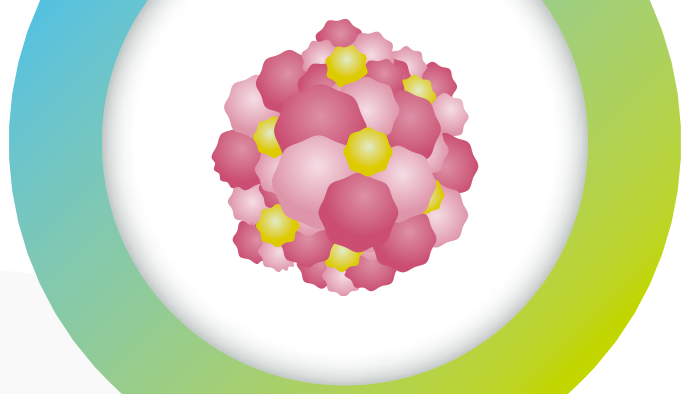
発症後、約2～5日はもっとも症状が強いと言われています。通常は軽症であり、1週間ほどの経過で自然軽快します。

治療と注意事項

治療法は年齢と症状に応じた対症療法です。感染リスクを下げ、感染を広げないために「人混みを避けること」、「手洗い」、「呼吸器衛生/咳エチケット」が大切です。

hMPVを予防するワクチンはありません。





Human rhinovirus / Enterovirus

ヒトライノウイルス／エンテロウイルスとは？

ライノウイルスは風邪の原因として最も一般的であり、ほとんどのライノウイルス感染症は軽症に留まります。一方、免疫力の低下した人、喘息、その他の基礎疾患のある人では重症化することがあります。エンテロウイルスはライノウイルスに症状が似ており、風邪症状を呈しますが、その他に手足口病、胃腸炎、髄膜炎などの原因となることもあります。

感染経路

ライノウイルス/エンテロウイルスは通常、感染者から他の人に対して、以下のような経路で感染します：

- 手を触れたり、握手したりするなどの直接的な接触
- 咳やくしゃみによる飛沫
- ライノウイルス/エンテロウイルスの付着した物体や表面に触れ、手を洗う前に口、鼻、目に触れる
- 感染者の排泄物に触れる（エンテロウイルス）

ライノウイルス感染症の潜伏期間は約2～3日です。エンテロウイルス感染症の潜伏期間は約3～6日です。

発症後、症状のある2～4日は最も感染力が強く、他の人に感染させる可能性があります。場合によっては、2週間程度ウイルスを排出している可能性があります。

症状

一般的な症状は以下の通りです：

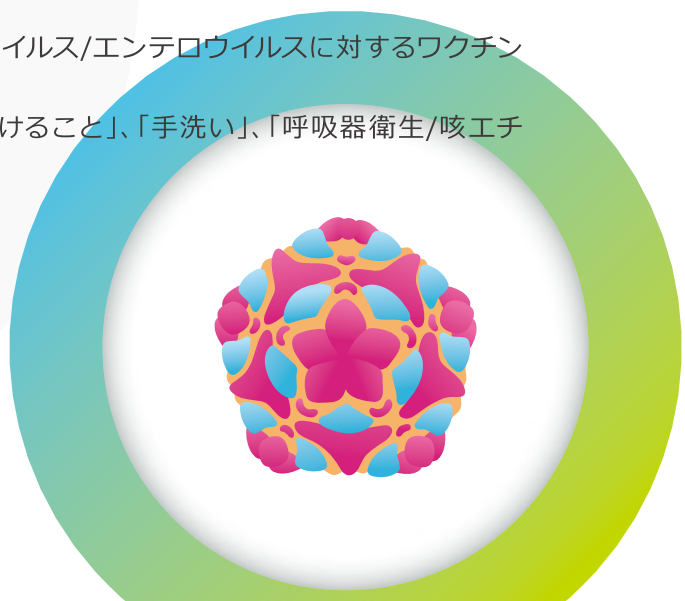
- 咳、くしゃみ
- 鼻水、鼻づまり
- 喉の痛み
- 頭痛
- 体の痛み
- 発熱
- 皮疹（エンテロウイルス）
- 口の水疱（エンテロウイルス）
- 胃腸症状（エンテロウイルス）

重症化することはあまりありませんが、喘息の増悪、気管支炎、肺炎などを起こすことがあります。一般的には、発症後数日は症状がもっとも強く、約7～10日で徐々に改善します。

治療と注意事項

治療法は年齢と症状に応じた対症療法です。ヒトライノウイルス/エンテロウイルスに対するワクチンはありません。

感染リスクを下げ、感染を広げないために、「人混みを避けること」、「手洗い」、「呼吸器衛生/咳エチケット」が大切です。





Parainfluenza virus

パラインフルエンザウイルスとは？

ヒトパラインフルエンザウイルス（HPIV）は、誰でも感染する可能性がありますが、乳幼児や免疫力の低下した人が感染することが多いです。一般的には、上気道感染症を引き起こし、自然治癒しますが、クループや肺炎など、重症化することもあります。

感染経路

ヒトパラインフルエンザウイルス（HPIV）は通常、感染者から他の人に感染します：

- 咳やくしゃみによる空気感染
- 手を触れたり、握手したりするなどの直接的な接触
- HPIVが付着した物や表面に触れた後、口、鼻、目に触れる

潜伏期間は2～6日程度です。発症早期がもっとも人に感染しやすいです。

症状

一般的な症状は以下の通りです：

- 発熱 ○鼻水 ○咳 ○くしゃみ ○喉の痛み ○嚔声（声がれ）

HPIVは、小児に以下のような重篤な症状を引き起こすこともあります：

- クループ ○気管支炎・細気管支炎 ○肺炎 ○犬吠様咳嗽 ○喘鳴

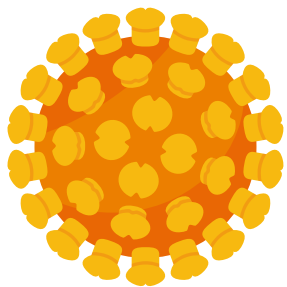
成人では、上気道感染症および気管支炎が最も一般的な症状ですが、高齢者や免疫力の低下した人では、肺炎など重篤な症状を起こすことがあります。

症状は一般的に数日から1週間程度が最も強く、発症から改善までに2週間程度要することもあります。

治療と注意事項

治療法は年齢と症状に応じた対症療法です。

臨床ケアには、症状と合併症の治療が含まれます。感染リスクを下げ、感染を広げないために、「人混みを避けること」、「手洗い」、「呼吸器衛生/咳エチケット」が大切です。HPIVを予防するワクチンはありません。





Bordetella pertussis

百日咳菌とは？

百日咳菌は百日咳と呼ばれる呼吸器疾患の原因となる感染力の強い細菌です。百日咳は、風邪に似た軽い上気道症状（カタル期）から始まり、咳、通常は吸気性のヒューという特徴的な発作性の咳（発作期）へと進行します。

百日咳の症状は、数週間から数ヵ月かけて徐々に軽快します（回復期）。百日咳は誰でも感染しますが、特に乳幼児は、生命を脅かす重篤な合併症を引き起こす可能性があります。百日咳を予防するための最善の方法はワクチンであり、通常、百日咳ワクチンを接種した人の合併症はそれほど重くありません。予防接種を受けた子供や成人の咳の症状は、典型的なものから非常に軽いものまで様々です。

感染経路

感染者との密接な接触により、咳やくしゃみによって発生する飛沫を介して感染します。潜伏期間は約5～21日で、多くの場合7～10日程度です。

咳の症状が出てから2週間は百日咳菌を排出している可能性があります。早期の適切な抗菌薬治療により、排出期間は短くなると考えられます。

症状

一般的な症状は以下の通りです：

典型的な百日咳感染症は3つの段階からなり、呼吸器症状の程度は様々あります。

1.カタル期（期間：約1～2週間）

初期の段階では、百日咳はふつうの風邪と区別が付きにくいです。

- 鼻水または鼻づまり
- 微熱（38.0℃未満）
- 軽度の咳
- 乳幼児における無呼吸（命にかかわる呼吸の停止）およびチアノーゼ（皮膚が青色または紫色になる）

2.痙攣期（期間：約1～6週間、最長10週間程度）

百日咳の症状が現れてから1～2週間後に、発作的に咳が出ることがあります。

これらの咳発作は通常1～6週間続きますが、最長で10週間続くこともあります。

- 咳発作
- 咳の発作が終わり、ようやく息を吸い込むことができたときに、甲高い「フーツ」という音を出す
- 咳の発作中または発作後の嘔吐
- 咳発作の後には非常に疲れるが、発作の間は通常元気なことが多い
- 呼吸が苦しい

3.回復期（期間：約2～3週間）

百日咳からの回復には時間がかかるとされています。回復するにつれて、咳はしだいに軽快します。

咳の発作が収まった後も、他の呼吸器感染症にかかるなどで再発することがあります。

治療と注意事項

適切な抗菌薬（マクロライド系など）による早期治療が、症状の重篤度を軽減するのに最も効果的です。特に乳幼児では、治療開始が早ければ早いほど効果的で、咳の発作が起こる前の最初の1～2週間に治療を開始すれば、症状が軽くなる可能性があります。重症百日咳を発症するリスクの高い人や、重症百日咳を発症するリスクの高い人と密接な接触を持つ人には、曝露後に予防抗菌薬を使用することが推奨されます。





Bordetella parapertussis

パラ百日咳菌とは？

百日咳菌に似た細菌です。パラ百日咳の症状は百日咳と似ていますが、一般的に軽く、無症状のこともあります。

乳幼児（とくに生後6ヶ月未満）は、年長者よりも症状が重くなることがあります。

感染経路

感染は通常、感染者の気道からエアロゾル化した飛沫を吸い込むことによって起こり、感染するとされています。

潜伏期間は百日咳と同様、約5～21日で、多くの場合7～10日程度です。

パラ百日咳菌は、症状の初期にもっとも感染力が高いと考えられます。無治療の場合、咳症状が出てから数週間は細菌を排出している可能性があります。

症状

一般的な症状は以下の通りです：

初期症状は1～2週間程度続くことがあり、通常以下のようなものがあります：

○鼻水または鼻づまり ○軽い咳が時々出る

その後の症状には通常以下が含まれます：

○咳の発作 ○喘鳴 ○嘔吐

無呼吸やチアノーゼが起こることもあります。

治療と注意事項

パラ百日咳に対する抗菌薬治療の有効性データは限られているため、治療の必要性は臨床的判断に基づきます。特に乳幼児、高齢者、免疫力の低い人など、百日咳の重症化リスクが高まる可能性のある人には注意を払う必要があります。パラ百日咳に曝露された人に対する予防は推奨されません。

百日咳ワクチンはパラ百日咳感染に対する予防効果はほとんどないと考えられています。



Chlamydia pneumoniae

肺炎クラミジアとは？



細菌の一種である肺炎クラミジア (*Chlamydia pneumoniae*) が市中肺炎 (非定型肺炎) の原因となります。徐々に発症し、適切な抗菌薬による治療を行っても、症状は数週間から数カ月続くことがあります。

感染経路

- 咳やくしゃみによる飛沫
- 感染者の飛沫が付着したものに触れた後、口や鼻に触れること

肺炎クラミジアは潜伏期間 (感染してから症状が出るまでの期間) が長く、感染してから発症まで通常は約3~4週間かかるとされています。

症状

肺炎、急性気管支炎、長引く咳、そして頻繁ではありませんが、咽頭炎、喉頭炎、中耳炎、副鼻腔炎を含む様々な呼吸器症状をきたします。喘息などの慢性呼吸器疾患を有する人の呼吸器症状や急性増悪に関連しています。免疫不全患者では重症の市中肺炎を呈することがあります。

一般的な症状は以下の通りです：

- 鼻水または鼻づまり
- 咽頭炎による喉の痛みや嚔声 (声がれ)
- 全身倦怠感
- 数週間から数カ月続く、ゆっくりと悪化する咳
- 微熱
- 頭痛

徐々に発症した後、適切な抗菌薬による治療を行っても、症状は数週間から数カ月続くことがあります。

治療と注意事項

肺炎クラミジア感染が疑われる場合、抗菌薬による治療が推奨されます：

- ー マクロライド系 (アジスロマイシン) -第一選択薬
- ー テトラサイクリン系 (テトラサイクリン、ドキシサイクリン)
- ー フルオロキノロン系抗菌薬

感染リスクを下げ、感染を広げないため「人混みを避けること」、「手洗い」、「呼吸器衛生/咳エチケット」が大切です。

注：テトラサイクリン系抗菌薬、フルオロキノロン系抗菌薬は、通常、幼児には処方すべきではないとされます。



Mycoplasma pneumoniae

肺炎マイコプラズマとは？

肺炎マイコプラズマは、さまざまな臨床症状や病態を引き起こす細菌です。

咽頭炎、急性気管支炎、肺炎を含む上気道および下気道感染症の原因として頻度が高いとされています。

肺炎マイコプラズマは学齢期の小児および若年成人における市中肺炎（非定型肺炎）の主要な原因ですが、5歳未満の小児における市中肺炎の原因としては稀です。

感染経路

肺炎マイコプラズマは、症状のある人との密接な接触時に飛沫によって感染します。

潜伏期間は一般的に1～4週間程度ですが、それより短いことも長いこともあります。

家族間、学校、施設など長時間接している状況では、20日程度は他の人に感染する可能性があります。

症状

マイコプラズマ感染症は上気道または下気道で発症し、軽症で自然に治癒することが多いですが、気管支炎や肺炎などの疾患を引き起こすことがあります。発症は緩やかで亜急性であり、数日かけて徐々に高熱としつこい咳へと進行します。症状は数週間から数カ月続くこともあります。明らかな呼吸器症状を伴わず、さまざまな肺外症状を引き起こすこともあります。

5歳未満の小さな子供では、5歳以上とは臨床的特徴が異なり、不顕性で軽症のことが多く肺炎に至らないことがあります。

喘息の増悪や重症肺炎などの重篤な合併症はまれですが、入院を余儀なくされることがあります。

一般的な症状は以下の通りです：

- 咳
- 倦怠感
- 発熱
- 頭痛

治療と注意事項

ほとんどのマイコプラズマ感染は自然治癒するとされています。肺炎マイコプラズマは細胞壁を持たないため、β-ラクタム系抗菌薬（ペニシリンなど）は効果がありません。

抗菌薬の投与が必要な場合、一般的にマクロライド系抗菌薬が選択されます。しかし、肺炎マイコプラズマはマクロライド耐性株が出現しているため、マクロライドの処方慎重に行う必要があります。

無症状の接触者への抗菌薬予防は推奨されません。感染リスクを下げ、感染を広げないために、「人混みを避けること」、「手洗い」、「呼吸器衛生/咳エチケット」が大切です。



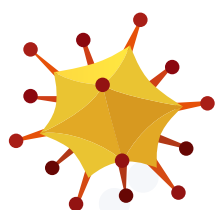


呼吸器感染症を 引き起こす 様々な病原体

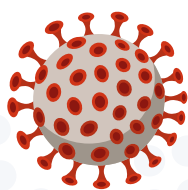


ウイルス

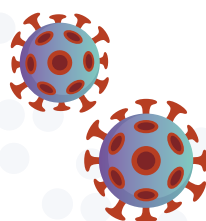
VIRUS



アデノウイルス
Adenovirus



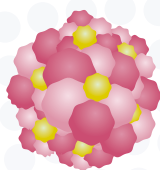
新型コロナウイルス
(SARS-CoV-2)
Coronavirus SARS-CoV-2



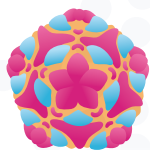
季節性コロナウイルス
Coronavirus(seasonal)



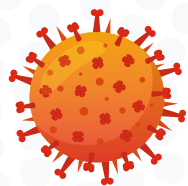
ヒトメタニューモウイルス
Human metapneumovirus



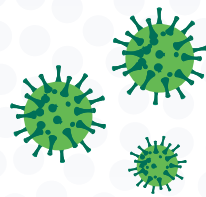
ヒトライノウイルス
Human rhinovirus



エンテロウイルス
Enterovirus



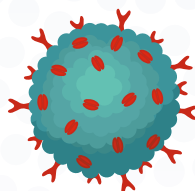
A型インフルエンザ
ウイルス
Influenza A virus



B型インフルエンザ
ウイルス
Influenza B virus



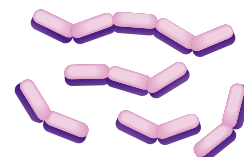
パラインフルエンザウイルス
Parainfluenza virus



RSウイルス
Respiratory syncytial virus

細菌

BACTERIA



パラ百日咳菌
Bordetella parapertussis



百日咳菌
Bordetella pertussis



肺炎クラミジア
Chlamydia pneumoniae



肺炎マイコプラズマ
Mycoplasma pneumoniae

Not an exhaustive list of pathogens that cause respiratory infections.

